

令和5年度習志野台公民館事業計画

1. 地域の状況

習志野台公民館周辺の地域は戦前軍の演習地であった。戦後、開墾のために入植した人達によって地域が形成され、昭和42年に習志野台団地が完成して以来、ベッドタウンとして発展した。現在は、郵便局や警察署・図書館・総合体育館などの公共施設整備が進み、東部地区の要となっている。また、平成8年には東葉高速鉄道が開通して新京成線北習志野駅に乗り入れ、都心との距離が短くなり住宅地として発展してきた地域である。

公民館の対象地域は、習志野台及び西習志野の約4km²、人口は令和4年10月1日現在で世帯数21,141世帯、人口43,924人であり、館区内には公私立合わせて、小・中学校が6校、高等学校が2校、大学が2学部存在する文教地区でもある。

2. 地域の課題

- (1)青少年では、異年齢交流、他校交流、異世代交流の場が多く必要ではないか。
- (2)管区内に公立小学校3校を擁している青少年の多い地域であることから、核家族化における子育て世代の孤立を防ぐとともに、家庭教育の支援が必要である。
- (3)高齢者では、地域の高齢化（令和4年10月1日現在65歳以上人口26.17%）と高い中、独居老人の増加が懸念され、心身の健康管理等が心配される。また、日々進化する情報化社会に対応することが難しい状況に置かれている高齢者も多く、情報格差が広がっている。
- (4)地域住民は、趣味・学習・教養サークルへの参加意欲が旺盛である。（新しいまちづくりに向けた市民アンケートより）

3. 重点目標

- (1)青少年事業については、学校や町会・自治会、地域の各種団体等と連携し、学校の授業とは違う「気付き」や「創造性」を育む体験型学習機会の提供をする。
- (2)家庭教育及び子育て支援事業については、子育てや家庭教育に悩みを持つ親を中心とした学習機会を提供する。
- (3)高齢者事業については、生きがいや仲間づくりを援助する環境の整備と、健康増進、情報格差の解消を図るための学習機会の提供をする。
- (4)地域との繋がりや交流の場として活用されるように、児童ホーム等と連携し、支援体制づくりを行う。

4. その他

現在、習志野台団地については、令和8年度の完成を目指して一部建替えが行われております。既に、一部の自治会は解散している状態であり、今後数年は住民の流出、流入が続くため、地域の繋がり、交流に留意する必要があります。